

授業科目名	教育実習 I (小学校)	教員名	杉田 康之 (実務経験のある教員)	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	必修
科目番号	JIS302	配当年次	3年後期		幼稚園教諭	選択
授業形態	実習				保育士	選択
単位数	4単位				こども音楽療育士	
科目					情報処理士	
施行規則に 定める科目区分						
一般目標	<p>(1) 事前指導・事後指導に関する事項 事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。</p> <p>(2) 観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項 児童や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校の児童の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>(3) 学習指導及び学級経営に関する事項 大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導面で実践するための基礎を修得する。</p>					
到達目標	<p>(1) 事前指導・事後指導に関する事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚した上で意欲的に教育実習に参加することができる。</li> <li>2) 教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに修得することが必要な知識や技能等を理解している。</li> </ol> <p>(2) 観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 児童との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。</li> <li>2) 指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。</li> <li>3) 教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。</li> <li>4) 学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。</li> </ol> <p>(3) 学習指導及び学級経営に関する事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学習指導要領及び児童の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。</li> <li>2) 学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。</li> <li>3) 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。</li> <li>4) 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童と関わることができる。</li> </ol>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている。」「3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。」「4. 教育に関連する事柄について、継続的・主体的に学ぶ学習能力を身につけている。」「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」「7. 基礎的な英会話及び音楽力を身につけている。」を育成する科目として配置している。</p>					
授業の概要	<p>教育実習 I（小学校）は、小学校普通免許取得希望者が履修する。4週間の教育実習を通して、児童に対する理解を深め、体験的・総合的に小学校教諭の職務を知る。また、学習指導案の作成、実際の授業体験により、教科の適切な指導法を体得し、実践的な指導力を培う。さらに、子どもの個性や生活環境、子ども相互の人間関係等を踏まえた学級経営の実際を学ぶ。また、地域との連携にも注目し、保護者や地域の人々との連携の在り方を知る。アクティブラーニングとして話し合い活動や振り返り、レポート等を取り入れる。</p>					
履修条件・注意事項	<p>教育実習指導をすべて受講し、実習に向けての心構えや、基礎知識を習得していること。</p>					
授業計画	<p>(1) 事前指導・事後指導に関する事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教師の職務や児童理解、指導の在り方等を体験的に学ぶという教育実習の意義を理解することができる。</li> <li>2) 教育実習生としての心得を理解し、全てのことを謙虚に学ぶという姿勢で教育実習に臨む態度を身につけることができる。（「教育実習に臨むに当たって」の作成）</li> <li>3) 実習終了後に「教育実習を通して学んだこと、発見したこと、今後の課題や抱負」をまとめ、</li> </ol>					

